

物価統計と県行政への活用について

茨城県企画部統計課長

前田常男



はじめに

物価は、国民生活にとって最も身近な関心事の一つである。

昭和一ヶタ生まれ以前の世代にとって、第2次世界大戦後のすさまじいインフレは、価格以前に「モノ」がなく、中でも食料をどう確保するかが深刻な問題であった。40歳代以上の世代にとって、昭和48年のオイルショックに端を発する“狂乱物価”も印象に残るものであった。

最近では、湾岸戦争に伴う石油供給への危機感や、昨年の長雨による生鮮野菜の高騰が印象に新しい。また、コメの輸入自由化や内外価格差にしても、大きな意味で物価問題の一環としてとらえることができる。

県において物価統計を所管する立場から、物価に対する県民の強い関心を踏まえたとき、正確なデータを提供することの重要性を改めて認識するものである。本年11月に実施される平成4年全国物価統計調査にも、しっかりと対応しなければと思っている。

全国物価統計調査と本県の物価統計

物価統計については、経常調査として小売物価統計調査が実施されており、本県は2市1町が該当している。この調査は主に時系列の物価変動をみるものであるが、全国物価統計調査は、一定の時点における小売と卸売の価格を把握することにより、商品価格やサービス料金を地域の特性、店舗の形態、取引段階等の別にとらえるものとされている。

なお、本県では、小売物価統計調査の2市1町のほか、県独自に5市3町を追加して「茨城県消

費者物価調査」を実施している。両者をあわせて「茨城県消費者物価指数」として公表することにより、県全体の物価動向の把握に努めているところである。

そこで、今回実施される全国物価統計調査について、県行政のレベルで諸施策の企画立案にその結果(本調査に限らず、物価統計一般について言えることだが)を活用できないだろうか、という問題意識のもとに日頃感じていることを述べてみたい。さらに、本調査を実施する立場から、前回の昭和62年調査の事後報告会に際して、本県の報告事項等も踏まえ、意見・要望も述べさせていただきたい。

県段階における物価政策の現状

物価統計のデータが直接に物価政策に活用されることは望ましいことであるし、国民にとっても分かりやすいことである。政府段階では、金融財政等を通じての物価政策にとって不可欠の基礎資料として活用されているが、果たして県段階ではどうだろうか。

県段階における物価政策としては、国との協力において実施する事業を含め、次のようなものが想起される。もちろん、このほかにも間接的に物価政策の効果をもたらす事務事業は数多くあるだろう。

- ① 物価安定施策として、生活必需物資(土地を含む。)の調査・監視
- ② 消費者への情報提供や啓発
- ③ 野菜等の安定供給を目指す産地育成(価格補償など生産農家保護政策の側面も強い。)

以上のように列挙してみると、物価安定や生活関連物資の供給安定を図る政策・権限は、地方公

共団体には極めて限定的にしか付与されていないようと思われる。

また、上記①の調査・監視は、政府と都道府県・市区町村とが連携して進めるべきものであるが、今回の全国物価統計調査によって明らかになる地域間格差や卸売・小売の各段階における価格形成の構造等は、地方公共団体にとっても貴重な資料であり、結果の公表が期待される。

地域活性化に物価統計を生かしたい

現在、物価統計のデータは、県段階でどのように活用されているのだろうか。卑近な例をあげると、予算要求に当たり単価引上げ等の根拠として使われることがある。これも立派な活用例とは思うが、もっとポジティブな活用を目指したいものである。

昭和62年調査の膨大な報告書のさわりを眺めると、生産者や供給者のサイド、特に流通段階の関係者にとっては、間違いなく貴重なデータであると思う。消費者のサイドや県段階の行政関係者にとってもそうであるはずなのだが、実態は「未だしも」という思いがする。そこで、県行政での活用方策を探ってみる。

本県は、東京近郊に位置し、県南に人口急増地域がある一方、県北の山間地域を擁し、また、日立や鹿島の工業地帯がある一方、農業粗生産額全国2位という大農業県でもある。県政の目標として県全体の発展を図ることはもちろんであるが、そのためにも所得などの地域間格差の解消、地域の特性に応じた地域振興を図ることが大きな課題である。

このような課題に応じた地域政策、特に、県レベルでの施策が相対的に大きな影響力を及ぼしうる1次産業や中小零細企業に対する事業を計画する上で、全国物価統計調査による流通段階別価格、地域別価格等を活用できたらという願望をもって

いる。もっとも、そうした地域政策の立案担当者が、物価統計のデータを既に活用しているという事例もあると思われるが、少なくとも一定の理論構成のもとに系統的に活用されているレベルには達していないのではなかろうか。しかし、県の組織や人的配置の現状からみて、これらのデータの活用方法の理論と実務のモデルをつくることは、私どもの能力を超えるものがある。今後、『全国物価統計調査結果分析研究会』の先生方や総務庁統計局の専門家の皆さんのお教示と御指導に期待するところ大である。

いずれにせよ、地域活性化に役立つ統計データであることが、関係者はもとより広く地域住民に理解されるなら、統計の重要性に対する認識も深まり、調査環境の改善にもつながるであろう。いささか理想論になったが、将来の目標であることは確かである。

生活実感にかなう調査を期待する

(1) 今回調査の特徴点を評価する

平成4年全国物価統計調査の特徴として、

① 「……余暇関連消費財やサービスへの支出が著しく増大するとともに、それらの支出分野における個別化・多様化の動きが進んでいる」ことを踏まえ「教養娯楽関連品目及び対個人サービス関連品目を中心に調査品目の充実を図る」

② 「世帯属性別にみた消費者物価地域差指数を作成する」

という2点があげられている。

この観点には全く同感であり、私どもとしても大いに期待しているところである。

(2) 生活実感にマッチする品目選定を望む

消費生活の変貌に敏感に対応する調査品目・銘

柄の選定に関し、前回の昭和62年調査の際「調査銘柄が古く現在取り扱っていないため価格が得られない銘柄もあった」という事後報告記録がある。もちろん、「流行」を追い回すような拙速は戒めなければならないし、また、こうした事実は本県のごく一部で生じた現象なのかもしれない。

ただ、今回調査との直接的関連はないにせよ、本年1月の小売物価統計調査における廃止品目をみると、もっと以前に廃止すべきと思われるものがあったことも事実である。

今回調査に当たって、難しさは多々あろうが、国民生活の平均的実態に見合った品目・銘柄の選定となるよう願っている。

(3) 生活の多様化に対応できる調査を望む

上記(2)に関連することだが、同じく前回調査の際に「輸入品の出回りが少なかった、東京での出回り状況と地方は異なる」という事後報告記録も残されている。

前述した小売物価統計調査の基準改定に際しても、輸入品が多数銘柄指定されたが、本県では出回っていない銘柄があり、調査員が苦労していると聞いている。

国民の生活や意識の多様化を反映して、商品、サービスの多様化には目まぐるしいものがある。

メーカーも「多品種少量生産」に向かいつつある。こうした傾向が強まることは、全国はもちろん県内においても共通銘柄の抽出を困難にし、価格差の把握が容易でなくなることを意味する。

このような状況をいくらかでも緩和するため、また、国民生活の実態をより反映したものにするため、1品目当たりの銘柄指定を可能な限り多くすることも一つの方法ではないか。そうすれば、特定の品目について価格取集が困難だという事態はかなり減少するのではなかろうか。

しかし、調査員の負担が過重にならないように調査員の増員が前提にならざるをえない。そういう意味では、今回の調査に関してというより、今後の課題なのかもしれない。

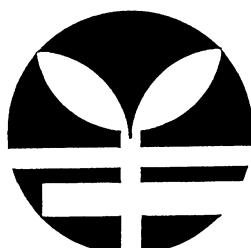
おわりに

統計事務に携わってまだ日が浅いが、この間に痛感したことは、統計主管課には貴重なデータが蓄積されているが、その活用面で地方段階でもっと工夫ができるのかということである。政策立案サイドとの連携が組み立てられていない弱点を感じるのである。

私どもとしても、こうした弱点を克服する道を模索しながら、平成4年全国物価統計調査の実施に万全を期する決意である。

全国物価統計調査

〈シンボルマーク〉



〈標語〉

「私の街 あなたの街」

「くらべてみよう全国の物価」

このシンボルマークは、物価を「¥」(価格)の記号で表し、若葉でアレンジしたものです。若葉は、生活レベルの向上を表現したものです。

平成4年度統計グラフコンクール作品募集

統計グラフコンクールの作品を次の要領により募集いたします。

なお、毎年第1～3部(小・中学生)に比べ第4部(高等学校以上の学生・生徒)・第5部(一般)の応募作品数が極めて少ない状況でありますので、第4・5部の方々のたくさんの応募をお待ちしております。(表-1)

平成4年度茨城県統計グラフコンクール募集要領

1. 目的

統計思想の普及向上と統計の表現技術の研さんを資するため、県内の児童・生徒・学生及び一般県民から統計グラフを募集します。

2. 主催

茨城県・茨城県教育委員会・茨城県統計協会

3. 後援

茨城新聞社

4. 応募資格

第1部 小学校3年生以下の児童

第2部 小学校4年生以上の児童

第3部 中学校の生徒

第4部 高等学校以上の学生・生徒

第5部 一般

パソコン統計グラフの部

小学校の児童以上・一般

5. 課題

自由。但し、第1部は児童が観察した結果をグラフにしたものとします。

6. 応募の方法

(1) 用紙の大きさ

第1部～第3部 B2判仕上(72.8cm×51.5cm)

第4部・第5部 B1判仕上(103.0cm×72.8cm)

パソコン統計グラフの部

B2判仕上(72.8cm×51.5cm)

(2) 紙質・色彩

各部とも紙質・色彩(単色でも可)は自由です

が、裏面の板張り、表面のセロハンカバー等は認めません。

(3) 応募点数

制限しませんが、2枚以上にわたる「シリーズもの」は認めません。

(4) 送付先

第1部～第3部、パソコン統計グラフの部(小・中学生)

中央地区(水戸教育事務所管内)

勝田市立外野小学校

県北地区(県北教育事務所管内)

北茨城市立富士ヶ丘小学校

県東地区(鹿行教育事務所管内)

麻生町立太田小学校

県南地区(県南教育事務所管内)

土浦市立都和南小学校

県西地区(県西教育事務所管内)

大和村立大国小学校

第4部・第5部、パソコン統計グラフの部(小・中学生以外)

県企画部統計課(水戸市三の丸1—5—38)

(5) 締切日

平成4年9月1日(火)

※なお、第1部～第3部、パソコン統計グラフの部(小・中学生)については、学校を通じて出品することになりますので、各地区に問い合わせ願います。

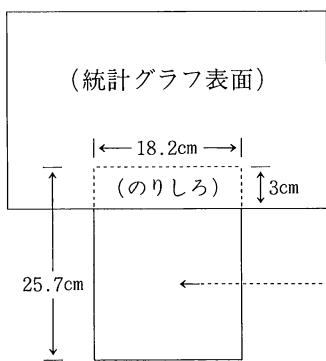
7. 応募上の注意

(1) 応募作品は、自分で創作したものに限ります。

(2) 応募作品の裏面に、住所、氏名、性別、年齢、職業を明記し、氏名には必ず「ふりがな」をつけること。

- (3) 自己の観察によった場合は観察記録を必ず添付すること。
- (4) 他から資料を利用した場合は、その取材資料の出所を作品表面の適宜の位置に明記するとともに、統計表及び取材資料を別紙として添付すること。
- (5) 観察記録及び統計表(取材資料の出所を含む)はB5判(25.7cm×18.2cm)の用紙に書き、作品の裏面下に3cmの「のりしろ」で次のように貼付すること。

例：用紙を横長に用いた場合
(縦長に用いてもよい)



統計表及び資料
(自己の観察によった場合は、
観察記録)

- (6) パソコン統計グラフについては、使用した機種・ソフト・プリンタ名を作品の裏面に明記して下さい。
- (7) 応募作品の合作は5名以内に限ります。

8. 入選作品の審査

- (1) 審査員
学識経験者及び行政機関等の職員
- (2) 審査方法
 - ア 地区審査
第1部～第3部の作品について教育事務所単位で審査します。
 - イ 県審査
地区審査で入選した作品並びに第4部・第5部及びパソコン統計グラフの部について審査します。

9. 入選区分及び賞

- | | | |
|-----|---|----------------------|
| 入 選 | ア | 知事賞(各部1点) |
| | イ | 県議会議長賞(各部1点) |
| | ウ | 県教育長賞(1～3部について各3点) |
| | エ | 茨城新聞社長賞(1～3部について各1点) |
| | オ | 県統計協会総裁賞(各部5点) |
| | カ | 県統計協会会長賞(各部10点) |
| | キ | 県企画部長賞 |
| | ク | 統計教育研究部長賞(1～3部各10点) |
| その他 | | 努力賞(入選以外の応募作品) |
| | | 優秀校賞(小学校10校、中学校5校) |
| | | 奨励校賞(小学校25校、中学校5校) |

10. 入選作品の発表

平成4年9月下旬に公表し、第1部～第3部、パソコン統計グラフの部(小・中学生)については、統計教育各地区部長及び所属学校長に、第4部・第5部及びパソコン統計グラフの部(小・中学生以外)については本人あて通知します。

11. 全国コンクールへの出品

入選作品中、特に優秀とみとめられる作品について各部5点を全国コンクールへ出品します。(但し、第1部～第3部については、上記ア～ウに該当した作品)

12. 表彰、作品展示

入選作品は茨城県統計大会会場に展示(上記ア～カ)し、表彰するとともに、巡回展示会場等(県内小中学校会場・水戸川又書店)で展示します。

13. 応募作品の帰属

応募作品のうち入選作品の著作権は茨城県に帰属します。(但し、クは除く。)

14. 応募等の問合せ

茨城県企画部統計課
(☎ 0292-21-8111・内線2652)

統計グラフ作成上の留意点

過去の審査経過からみて、グラフとしては優れた作品であっても、形式的要件が備わっていないかったり、内容に不備や過誤があるため、選外とされる作品が意外に多くみられますので、提出前に次の諸点を十分に見直してください。

1. 応募規定に関するもの

- (1) 観察記録が添付されていること。
(募集要領7(3))
- (2) 取材資料の出所をグラフ作品の表面上の適当な位置に明記すること。(同7(4))

2. 作品の規格及び基本的事項に関するこ

- (1) 用紙の仕上げ寸法を厳守すること。
- (2) 基線を表す0を確実に記入すること。
- (3) 単位(人とか個などの単位)を明確にすること。
- (4) 円グラフ、帯グラフ等の百分率で数量を表示するグラフについては、元の数量(総数)の表示をすること。
- (5) 統計表等の計算に誤りがないこと。
- (6) 誤字、脱字をしないこと。
- (7) 縦書き2行以上にまたがる文の場合の書き方

は、原則として右から左へ移っていくこと。

- (8) 調査年月日、凡例等の記入を忘れないこと。
- (9) パソコン統計グラフについては、グラフを複写機等により拡大又は合成して規格に合わせ、必要により手書き、彩色等により見る人に楽しく、興味を持たれるよう工夫すること。また、グラフの展開、配置に際して、訴えたい主題を印象づけるようにすること。

3. 指導上の注意(学校の先生方へ)

- (1) 資料の選択及び取り扱い方についての示唆・助言は差し支えないこと。
- (2) 表現(グラフ)は児童・生徒の自主性を尊重する。ただし、技法的に介入しないこと。
- (3) 切絵又は折紙をのり付けした場合のはく離・絵具の品質又は使用方法の不適当に起因するはく落等が生じないよう指導及び点検をすること。

第39回(平成3年度)統計グラフ全国コンクール応募作品数

表-1

都道府県	第1部	第2部	第3部	第4部	第5部	パソコン統計 グラフの部	合計
北海道	29	109	10	1	1	1	151
青森	72	114	8	5	1	2	202
岩手	81	103	5	4	—	—	193
宮城	48	139	357	—	3	—	547
秋田	37	73	12	1	2	—	125
山形	32	152	14	—	1	—	199
福島	126	245	24	—	2	1	398
新潟	58	118	27	—	1	3	207
茨城	4 118	5 763	1 517	—	2	4	11 404
栃木	55	65	54	—	5	5	184

表一 つづき

都道府県	第1部	第2部	第3部	第4部	第5部	パソコン統計 グラフの部	合 計
群馬	444	691	767	1	6	0	1 909
埼玉	216	760	1 257	3	1	1	2 238
千葉	666	1 117	971	3	2	—	2 759
東京	21	147	833	2	—	—	1 003
神奈川	1 899	3 517	5 024	1	1	—	10 442
山梨	39	135	225	1	—	1	401
長野	755	2 020	546	20	2	2	3 345
静岡	1 322	2 571	1 168	—	—	—	5 061
富山	16	59	131	15	—	2	223
石川	33	38	135	—	2	3	211
岐阜	3 655	2 758	286	7	1	1	6 708
愛知	182	616	945	14	—	8	1 765
三重	45	186	964	10	2	2	1 209
福井	214	606	2 576	—	—	10	3 406
滋賀	578	1 095	197	—	—	5	1 875
京都	34	233	164	—	2	2	435
大阪	10	339	120	2	1	2	474
兵庫	238	455	464	39	3	3	1 202
奈良	368	1 165	445	—	—	—	1 978
和歌山	7	8	15	5	1	2	38
鳥取	73	113	70	—	1	2	259
島根	39	76	74	—	2	1	192
岡山	197	295	100	—	—	—	592
広島	40	79	62	2	—	4	187
山口	92	102	60	5	—	—	259
徳島	23	37	7	13	—	—	80
香川	476	608	3	24	—	1	1 112
愛媛	1 311	1 365	243	—	—	6	2 925
高知	35	38	36	—	—	—	109
福岡	33	202	19	—	2	2	258
佐賀	91	264	192	—	—	—	547
長崎	35	40	44	—	1	—	120
熊本	32	68	12	—	2	—	114
大分	252	206	79	16	1	—	554
宮崎	23	84	21	—	—	—	128
鹿児島	103	357	71	2	—	3	536
沖縄	15	52	420	—	—	—	487
全 統 連	—	—	6	—	—	—	6
総 合 計	18,268	29,383	20,780	196	51	79	68,757